地域の保健活動に役立つシステム

国保データベース（ＫＤＢ）システム説明会

４月２３日（火）府国保連合会、２４日（水）京田辺市役所、５月９日（木）福知山市民会館の会議室にて本会主催の地区別国保データベース（ＫＤＢ）システム説明会を開催し、２６市町村の保険者から約８０名の参加があった。

開会にあたり保健事業課の大橋課長より、現在、国保中央会にて構築中である、国保データベースシステムについて、国保担当・衛生担当・介護担当の各部署連携のうえ、システムを活用いただけるよう支援する、との挨拶があった。

引き続き担当者から、国保データベースシステムとは、国保連合会が保有している医療、特定健診・特定保健指導及び介護保険の情報を分析し、地域の保健活動に活かしてもらうシステムである。レセプトや健診結果、介護サービス利用状況などを分析することで地域の健康課題を明らかにし、住民が健やかに暮らせる地域づくりに役立てていただきたい、と説明があった。本システムは厚生労働省の国保ヘルスアップ事業の評価にも活用される予定。また、個人情報の保護に関する法律の解釈、運用時のセキュリティ対策や今後のスケジュール等が示された。京都府国保連合会では平成２６年４月に本システムの稼働を目指している。